教育×笑い＝エデュテイメント

大阪成蹊大准教授 福岡亮治



⑯

人生の可能性を広げる

自分で考え、自分で選び取る

昨年度、私のゼミ生3人が大学院に進学し、今年度も既に2人のゼミ生が大学院に合格しました。

一方、大学院に進学しない残りの5人も全員が教員採用試験に合格しました。それぞれが自分の夢に向かって努力し、未来を切り開いていく姿をとても嬉しく思っています。

これまで私のゼミでは、教育学部の学生は卒業後すぐに教師になるか、一般企業に就職するかという選択が主流でした。しかし、今は教職大学院に進学し、さらに学びを深めるという道も提案しています。

今年度、大学院に進学する2人は、幼児教育やICTの活用について学びを深めようとしています。教師になる前に専門的な知識や実践力を高め、将来の教育に生かそうとする姿に大学院進学という選択肢の意義を感じています。

昨年度も今年度も、大学院に進学したゼミ生は全員、国立大学の大学院を選びました。国立大学院への進学は学費などの経済的な負担を配慮するという面でも一つの選択肢となります。



さらに、大学院修了後に教師をめざす学生には、奨学金の返還が全額免除される制度があります。日本学生支援機構の「教員になった者に対する奨学金の返還免除制度」です。この制度は国立・私立を問わず、大学院在学中に第一種奨学金の貸与を受け、特に優れた業績を挙げ、院修了の翌年度から正規教員として採用されるなど、所定の条件を満たせば利用可能。誰もが対象になるわけではありませんが、経済的な理由で進学を迷っている学生にとって知っておきたい制度の一つです。

もし、この制度を知らなければ大学院進学をあきらめていた学生もいるはずです。情報を得ることで初めて選択肢に加わる道があるのです。



もちろん、教師になることも大学院に進学することもどちらも正解。大切なのはどちらを選ぶことより以上に自分で考え、納得して道を選ぶこと。

選択肢が増えれば、その分、悩むことも増えます。しかし、悩みながら真剣に考え、自分で選び取る道だからこそ、自信を持って歩んでいける。たとえ困難に直面しても、自分で決めたという思いが、前に進む力になるはずです。

自分で考え、自分で選ぶ人生。その積み重ねが、人生を豊かにしていくのだと思います。

そして、選択肢を広げるためには、まず情報を知ることが大切。大学教員である私自身がさまざまな情報を得て、それを学生に伝えることも大切な使命の一つだと考えています。知っているかどうかで、学生の未来の可能性が変わるかもしれないからです。

教師になるゼミ生も、大学院に進学するゼミ生も、それぞれが大いに悩み、自信を持って選んだ道を歩んでいきます。その先に素敵な人生が待っていることを願っています。

京都新聞社 The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.

©京都新聞社 無断複製・転載を禁じます